

「遠野」への旅



川口正浩

岩手県遠野市と不思議な縁が生じて、平成28年10月17日〜19日に同市を訪れる機会に恵まれた。

福岡町と遠野市とは、民俗学者柳田國男の名著『遠野物語』が取り持つ縁で友好都市関係にある。

柳田國男と福岡町

柳田國男（二八七五〜一九六二年）は、兵庫県神東郡田原村辻川（現神崎郡福岡町辻川）で、松岡家の六男として出生し、一九〇〇年（明治33年）に東京帝大卒業後、農商務省に入り、以後、全国の農山村を歩き、主に東北地方の農村実態を調査した。

東北出身の新進作家佐々木喜善と知り合い、後に遠野に滞在して、一九

一〇年（明治43年）に『遠野物語』を自費出版した。

一九一九年（大正8年）貴族院書記官長を辞任後、民間人として本格的な執筆活動に入る。

一九四九年（昭和24年）日本民俗学会を設立して初代会長に就任し、「日本民俗学の父」とよばれる。

福岡町では、辻川山の麓の辻川山公園に柳田國男・松岡家記念館を設立し、その西隣には、國男自らが「民俗学の原点（日本一小さい家）」と称した生家が移築・保存されている（写真1）。



写真1 柳田國男生家



写真2 カッパ伝説

町では、國男ゆかりのカッパ伝承を活用した町おこしを始めている。

町の清流市川に、いたずら好きの兄弟カッパがいたとして、辻川山公園の池のほとりに兄「ガタロウ（河太郎）」の像を置き、水中からは弟「ガジロウ（河次郎）」の像がぬつと現れる仕掛けを作った。ガジロウのからだは真っ赤で、筋張った手に裂けた口、あまりにも不気味なその風貌に見物の幼児が泣き出すこともあるという（写真2）。

福岡町は、このように以前から「柳田國男生誕の地」としてPRに取り組んでおり、平成26年8月には、『遠野物語』ゆかりの遠野市と、従来からの交流を更に深めるべく友好都市共同宣言を行った。

柳田國男検定について

福岡町では、國男の功績と改めて向き合い、広く一般に理解を深めたいとの趣旨で、平成26年8月「第一回柳田國男検定（初級編）」を実施した。その後、27年8月に中級編、28年8月に上級編が新設された。

そして、上級編では8人が合格したのだが、お陰さまで私が最高得点だった（写真3）。



写真3 柳田國男検定上級編最高得点賞盾

その際の副賞として、『遠野物語』の世界を体感する旅を贈呈された次第だ。

遠野市について（写真4）

岩手県の内陸部（釜石市と花巻市の中間）にあり、柳田國男著『遠野物語』の舞台となったまちである。人口約3万人、面積は、東京23区とほぼ同じで、北上高地を形成する



写真4 遠野市近隣地図

早池峰山を始めとする山々に囲まれた盆地である。

カッパや座敷童子などが登場する民話も数多く伝わり「民話のふるさと」とも称されている。

「遠野」への旅 行程

一日目 (10月17日)

市立博物館

日本初の民俗専門の博物館として昭和55年に誕生し、『遠野物語』を基軸にして遠野の民俗資料を収集し公開されている。

平成22年の『遠野物語』発刊100周年を機にリニューアルされた。今回の訪問の際は、現地学芸員の方から詳細なご説明をいただいた。とおの物語の館 (写真5)

昔話蔵

昔の造り酒屋の蔵を改



写真5 とおの物語の館入口

造し、古くから伝わる昔話を切り絵やイラスト、映像等で紹介している。広々とした蔵の中は、まさに昔話の世界。

柳田國男展示館

旧高善旅館 (写真6)

柳田國男が滞在した宿で明治から昭和にかけての遠野を代表する旅館。



写真6 旧高善旅館

『遠野物語』の草創に関わった宿として移築し、國男の生涯や遠野での足跡を紹介している。

旧柳田國男隠居所 (写真7)

昭和31年1月から昭和37年8月に88歳で逝去するまで、柳田國男が



写真7 旧柳田國男隠居所

孝夫人と共に過ごした家。東京都世田谷区成城から移築。國男の功績や著作を紹介している。

昔話の聴ける宿あえりあ遠野

夕食の前の30分、囲炉裏のある和室ホールで、地元の語り部さんによる民話を聴いた。「昔あつたずもな(そうな)」で始まり、素朴な遠野の方言混じりの語りが続く。「どんどはれ(めでたし)」で終わる。耳からただだと率直に言って三分の一も判らないが、解読用のパンフレットが配布されるのでそれを読めば、ほぼ理解できる。(写真8) 三年前、天皇・皇后両陛下も同じ場所で、民話を楽しまれたという。



写真8 あえりあ遠野語り部ホール

二日目 (10月18日)

終日、観光タクシーを利用して遠野の見所を周遊。

ふるさと村 (写真9)

茅葺きの農家が点在し、昔ながら



写真9 ふるさと村のかやぶき民家



写真 10
カッパ捕獲許可証

らの山里の文化や暮らしを体験できる。予約をすれば、そば打ちや餅つき、陶器作り等のメニューもある。昭和初期にタイムスリップしたような風景が随所に見られるので映画のロケ地として活用されている。大河ドラマ「龍馬伝」、「天地人」、「真田丸」等の撮影が行われた。

伝承園

かつての農家の生活様式を再現し、伝承行事、昔話、民芸品の製作・実演などが体験できる。

両陛下は、この園の囲炉裏の間でも民話をお聴きになられたという。

カッパ淵（写真10）（写真11）
『遠野物語』では、カッパの話は5話残されている。

常堅寺の裏のカッパ淵では、カッパ捕獲許可証の所持人には、キュウリ



写真 12 デンデラ野の共同住宅

『遠野物語』にも書かれている「姥



写真 11 カッパ淵

付きの釣り竿が無償貸与されるのでカッパ釣りをする人が時々現れるが、なかなか釣れないようだ。

捨ての丘」で、佐々木喜善の生家のすぐ近くの小高い丘である。60歳を超えた老人が村を出てここで共同生活を送り、食い扶持を減らした。日中は、丘から下りて村の農作業を手伝い、僅かな食糧を貰い、夜には、丘へ帰って行ったそうだ。

三日目（10月18日）
あえりあ遠野↓中尊寺（金色堂）・毛越寺↓宮沢賢治記念館↓空港

「遠野」への旅を終えて
今回、柳田國男が二〇〇年以上前に訪れた遠野を訪問し、その足跡の一部を辿った次第だが、その旅を終えた今、誠に感慨深いものがある。

例えば、2年半程前に、ふと目にした新聞記事がきっかけで、「柳田國男検定」を受験したのだが、その後の展開は自分でも思いがけないものがあった。

まず、40数年ぶりに福崎町を再訪して、変貌を遂げたふるさとに驚かされたが、昔、三角ベースをして遊んだ鈴ノ森神社境内と山桃の木は

変わらぬ姿のまままで迎えてくれて懐かしさがじんわりとこみ上げてきた。

また、検定試験の勉強を通じて、これまではよく知らなかった福崎町の歴史と習俗、國男の功績等を知ったことにより、ふるさと福崎町との絆がより強くなった感がある。

更に、『遠野物語』の世界をつぶさに体感できたことは私にとって望外の幸という他ありません。

川口正浩氏略歴
昭和13年3月 兵庫県姫路市生まれ
昭和20年7月〜31年3月 福崎町（当時田原村）辻川に在住
昭和36年3月 京都大学法学部卒業
昭和36年4月〜平成13年6月 大阪ガス株式会社
平成11年4月〜21年3月 大阪簡易裁判所民事調停委員